



尼義 正奈 AMAGI SEINA

■T159 B123 W62 H110

26歳。22歳の時に警官に、24歳で能力者性犯罪対策組織『テミス』に配属住吉警部とボディを組み捜査にあたる優秀で正義感が強くクールだが中身は意外と普通の女子住吉に好意あり

■住吉智宏

30歳。警部。正奈のボディ真面目で勤勉正奈とも相性が良く惹かれている。

■万才仁人(まんざいじん)

49歳。警視。警察署長セクハラばかりしている上にいい歳してオタク、実は能力者自分の体液を相手に摂取させて同じ趣味性癖にする『癖共有』をもつ。

—この街では
怪人や能力を持つ
犯罪者が
はびこっている…
その中で性犯罪を
犯す能力者を専門で
取り締まっているのが
警察組織『テミス』…

対能力者スーツに
適正のある者たちで
組まれたチームだ
俺もチームの一員で
ボディを組んでいるのが
後輩の……

「住吉(すみよし)先輩…遅いですよ
この犯罪者は確保しました」
彼女は『尼義(にぎ) 正奈(あまぎ せいな)』

「11時23分 現行犯逮捕
睡眠誘発能力で女性たちを
睡眠強姦…本当に許せまね」
正義感が強く実力も折り紙付き
決して性犯罪者を
許さないという信念をもつ頼れる相棒で……

「どうしました?先輩?…いつも
以上にボーっとしてますが」
俺の想い人だ…



「はあ……スーツは汗臭くなるのが欠点ですね……キワどいし……」
「余り服装を緩くするなよ、署長に見られたら……」
「オタクのセクハラ署長ですか……それより先輩
私が先に容疑者を捕まえたなら……」

「あ……ああ、食事を奢る
約束だな、わかってるよ」
「できれば二人きりで……」

「おお、いいところ
に
尼義くん」
「あ……」

署長：セクハラで
有名なのだが
何故か女性職員達から
被害が報告されない……
それどころか……

「実は君にお願いしたことがあってね
新スーツのテストと技術部から
通達があったのだよ」

「……わかりました、お引き受けします」
「ハハハ、さすが我が『テミス』の
期待の星だな」
「なぜだか嫌な予感がする……」
「任せてください、私がコイツの
性加害を明るみにしてみせますから」
「いつもの余裕の笑みを浮かべ
彼女は署長と共に去っていく……」

「グッ」

「考え……すぎだよな……」

——だが彼女はその日から
署内で姿を見せなくなった
別施設でスーツのテスターを
しているとのことだったが
スマホでも連絡が取れなくなって……

一月が過ぎた頃……
署長から呼び出しがあった
『彼女のことと通達したことがある』との
ことだった……

不安が大きかったが
彼女と久々に会えるかもしれないという
期待と共に扉を開けると……

署長室

状況を飲み込めず
呆然としてしまった……
いつも毅然と
していた彼女が……

頭がおかしくなったような服装をして署長の隣に立っていたからだ……

「せ、先輩っ!?なぜ……」

「ワシが呼んだのだよ」

「セイナたんがお前とのバディを解消して私の専用……」

「……でなく専属秘書になると伝えておこうと思っただけ」

「正奈……たんっ!?!」

はぁい
はぁい

「あら♡」

「そっ……です」

「センパイ……」

「心配いりません……」

「署長は無罪……でした……ぶいっ☆」

グーお……

「なっ……何を言ってる……今だってセクハラを……その格好も」
「これは新しいスーツです……」
「多少、露出は激しいですが♡」

「そっだよ?」

「それにこれは痴漢対策のトレーニングだからねえ……」
「それじゃあ報告はしたからねよろしくねっ!」

ま……
おっ……

「ちよ……ちよっと」

「そんな……あの正義感の強かった」

「正奈が……何があったんだ……」

「さっきの態度はなんだ!? セイナたん」
「はっ! 申し訳ありません!!」
オチンポリス正奈は

「ほっ♡」
「想い人だった先輩を前にして
『今の私』をさらけ出すことが
できませんでしたっ!!♡」

「まったく...それでは立派な
オチンポリスにはなれないよ?
まだトレーニングが必要かな」

「おっ♡」
「はっ♡」

「はっ♡」

「はっ♡」

「はっ♡♡♡
お詫びと...
署長のデカチン
取り締らせて
いただきます!」
「いそ〜♪許可する♡」

「はっ♡」

「はっ♡」



「勝手にイキまくる変態ポリスには
まだ躰が必要だね〜」

「はいっ！本当はスーツでも何でもない
オチンポリスのコス着てしまっ

ドスケベセイナのオマンコとおっぱいを
お躰お願いしすっ！！

んへ♡♡へ♡へ♡」

「はっ！抵抗もできず…
本当は痴漢行為で
感じまくっております！！
…んあ♡♡」

あゝ♡

「はっ！抵抗もできず…
本当は痴漢行為で
感じまくっております！！
…んあ♡♡」

「んふふ♡本当に可愛くなったね
セイナたん♡一ヶ月前痴漢したときは
あんなに嫌がっていたのに…」

「んふふ♡本当に可愛くなったね
セイナたん♡一ヶ月前痴漢したときは
あんなに嫌がっていたのに…」

「はい！あの時は署長が性犯罪能力者で
私を囮捜査に出して
痴漢してくるなんて
思いもありません
でしたのでっ…んほ♡♡」

「でもボクが渡した
『性犯罪者育成デバイス』の
おかげで…」

やめろ

性犯罪者め！！

「はっ！抵抗もできず…
本当は痴漢行為で
感じまくっております！！
…んあ♡♡」

「んふふ♡本当に可愛くなったね
セイナたん♡一ヶ月前痴漢したときは
あんなに嫌がっていたのに…」

んふふ♡

「それでボクのザーメン
流し込まれて…うっ！♥」

「は…はっ♡署長の

『癖共有』能力で

スケベコス好きの

オタ女に生まれ

がわりまじだあ！

んあっ♡

ありがと

ございますっ♡」

グ
グ
ウ
ウ
ウ
ウ

「でもボクのチンポ好きに
なったのは
能力のせいじゃないよね？」
「その通りです！実はセイナ
エッチなことに興味津々で…
おっ♡…デバイスあったとはいえ
署長のデカチン痴漢レイプで
イキまくっちゃやう根っからの
ムツリドスケベだからで
あります！」

んほ♡

んほ♡

「ヌフフ…ぐっ！

JKコス思い出したら

コーファンしてきた！

家で帰ったら

あのコスでしようか♥」

「お願いひまふっ！！♡」

んほ♡

「ごも、その前に
プチキスソックスの刑…んんん♡」

「はあ…いんあ…あ♡
んぶるるるるる♡♡♡♡♡
しよひよらん…んぼあ♡
やべっ…いぶるっん!!♡♡♡」

れろあ♡♡♡

べちあ

べちあ

れろあ♡

「んぶ♡家戻つたらいっぱい
エッチしようね♡
あの時みたいにな…」

一ヶ月前…
所長による痴漢被害に
あった後……

「どういっつもりですか！
噂の連続痴漢魔が
警察署長だったなんて…
前代未聞です!!!」

「何故なのか…被害届が出てない理由も私の家に来てくれればジックリと教えてあげよう」

「今まで女性達からは被害届が出てないせいで立件することさえ出来ませんでした…」

「では尼義くんが訴えて私を捕まえてみるかね？」

「そうしたいですが…」

「その前に何故こんな事をしたのか…」

フッ

グン

ひっ!

フッ…

!!!

「くっ!これは罠よ…署長は何らかの方法で女性達に被害届を出させないようにしてるんだわっ!私が…お尻もみもみドスケベ♡なセクハラを止められないのも理由があるはず…だから…」
「わ、わかりました…ただし理由が分かり次第、訴えますよ」
（覚悟してなさい!!性犯罪者め!!）

「どうだい？ボクが大好きなオゲレツエロゲー

『セーラー・バージン』は？

どのキャラがお気に入りに？」

「オゲレツって…エロゲーのくせに

思った以上に面白いですね…

キャラは緑の『セーラーグリーン』が…

って…そ…それより…」

「さっきから…んっ♡

胸イジルのやめて…

くださいっ…んっ♡

セクハラは犯罪ですよ…っ」

や…やめて
下さ…っ

「んふふ…この胸だと
肩も…つてるかと思ってね」



「んっ♡だったら肩を…
あ…っ♡パンツに何
押し付けてるんですかっ…
…いやぁ…んっ♡
（な…なんで!?!）
バカみたいに媚びた声を
出してるんですか、私は…」

ちよっ…
やめっ…んっ♡

（何か、おかしい…セクハラに
抵抗する気が起きないし…
この下劣でスケベなゲームが
楽しくてたまらない
普段なら忌避する内容なのに…）

やっ…ま…
どどどど

「わ…私に何をしたいんですかっ
んひっ♡あぁっ♡
あっぱいタメスっ♡」

どぢゅっ…

（くぅ…また変な声が…
どうやってかはわからないけど
他の女性達も同じように……）

「乳首ちゃん
まだ隠れてるのかなあ
セイナちゃんと違って
恥ずかしがり屋だねえ♡」
「くっ…キモチ悪っ…」
名前で呼ばないでっ…んっ
もう…わかりました！
帰って…この事を…んう！」

「まあ、そう言わず…最後に
『セーラー・バージン』の
VRゲームをしていって…ね？」

「バージンの…VRゲーム？」
「そうそう…と…っても楽しいから…ね」
「あう…はあはあ♡」

（あぁ…したいしたいしたい♡
ニップルのVRゲーム…きつとすっくぅ…）
「ま…まあ…折角ですっプレイして
からても……」

「……着替えまひたけどコレは……」
「ボクが好きなソシヤゲキャラの水着コスだよ」
「なるほど…じゃなくて…このゲームが終わったら
絶対に罪を償ってもらいますからね!!」

ははっ♡

「いいよ…セイナちゃんがゲームクリアできたら自首してあげる」
「ほ…本当ですか？」
「ただしクリア出来なかったら痴漢の時みたいになか出し一発ね…」
「それじゃゲームスタート！」

「えっ!? 待って…うわっ! すい! 本場にニップルの世界」

「…って感動は後回し…ミスしたらまた、この性犯罪者に…先輩…私、負けませんから!」
「ワクワクする? セイナちゃんは能力でボクと同じ趣味趣向になつてきてるからね♥」
「能力?…あ、始まる」
「(能力…私が変わるのも…いえ! 今はゲームクリアが優先目標! 任務…遂行します!)」

「このっ! えいっ! ♥
『セーラーグリーン』…いえ!
更に変身した『セーラーアナル』の敵ではないわね! んっ♥」

「ほっ!!」
「えい!!」
「えい!!」
「えい!!」



「馴染んできているね♥ボク有能力、素質ないと効果薄いんだけど」
「素質……?……んおっ!♥べろりっ」

（おお♥驚いてオナラしちゃた!）
……恥ずかしい……VRゲームって
触覚再現もあるって知ってたのに）
「んぐう……んへ……興奮してオナラしちゃうなんて
へんたいの素質あるよ、ボクと同じ」
「そ……そんなものない……くうっ♥」
（署長と同じ趣向になる能力……
いえ今は考えるのやめて
ゲームクリア優先!♥）

「すごい♥触手の感触まで再現してる」
（見られてるのに……ゲームに没入して
本当にセーラー戦士になりきってしまう
……うう、悔しいけど楽しいっ♥）

「このっ!えいっ♥」
「セーラーグリーン……いえ!
更に変身した『セーラーアナル』の
敵ではないわね!んっ♥」

「このっ!エッチな触手め!
狙うなら一般女性でなく、
この露出狂のセーラー・アナルを
狙いなさいっ!
ほら!おっぱいぷりぷりっ♥
……んほっ!♥」
（署長が聞いてるのになっ
『アナル』のマネしちゃっ♥
ああ♥たのしいっ♥この
スケベゲームせいっ♥）

「んおっ♥ひおっ!♥」
（ダメ〜ジ連動で振動っ!?
乳首と……股間ガ……すっ♥）

「ひっ…キモチもくても…おっ♡」
(集中しないと…負けたら署長と…
犯罪者とセックス…せつくす…せつくす♡)

ハッ!
もあ!

「はっ!とお!…」のままいけば
クリアできる…ぬひんっ!
「ぬふふう」頑張ってるね
…でも…んべろべろ♡」

「んひっ♡んひっ♡
乳首攻撃つよいっん
ぬほっ♡ふっ♡」
(また「アナル」の声真似
しちゃった?)
それにこの感触!
ゲームじゃない?)

「更にコッチも攻撃しちゃおうかなあ
べろべろお♡」
「んっ♡んほっ♡これっ♡…ふっ♡」
(くさっ!…)これはゲームじゃなくて
署長が触って…いえ、舐めてるんだわ!
「んっ♡邪魔ダメっ♡ふっ♡」
「ゲームをより臨場感あるものに
してるだけだよ
楽しいでしょう?べろべろお♡」

「たのしいっ♡ですが…ふっ♡
セラールアナルの唇まで
舐めちゃ…だめっ♡んっ♡」
「癖共有」でボク好みのバカな媚び声
多くなってきたね♡いいよ♡」

んっ♡
んっ♡

おっ♡

「これは『ローラーアナル』のマネで…あぁん♡
さっきからロクハラしてますねっ!!性●罪だめえっ♡
(なんで?止める気が
起きない?私…
この状況を楽しんで…
キモチよくなってる
能力のせいで…
マズイわ…
ゲームだけじゃなくて
性●罪されるの…
たのしくなってる♡)」

「あぁん♡おれはもくろい♡おれは
いいだけ…ひぁん♡」
(ロクハラやオゲレツゲーガ
楽しんでる勝つぞ
任務完了…完♡おれは…♡)

「ならしで、どうだ!」
「ひくろっ♡んっ!!」
「オマンコ食い込み
ダメええっ♡ん!♡あぁん♡」

GAME OVER!
「あぁん♡…♡あ…♡」
「ぬふふ、賭けはボクの勝ちだね
じゃあ早速…!」









署長室

























